

平成20年度

農林水産情報交流ネットワーク事業 全国アンケート調査
大豆加工食品に関する意識・意向調査結果

この調査は、平成20年9月中旬から9月下旬に、農林水産情報交流ネットワーク事業の消費者モニター1,500名に対して実施し、1,295名から回答を得た結果である。

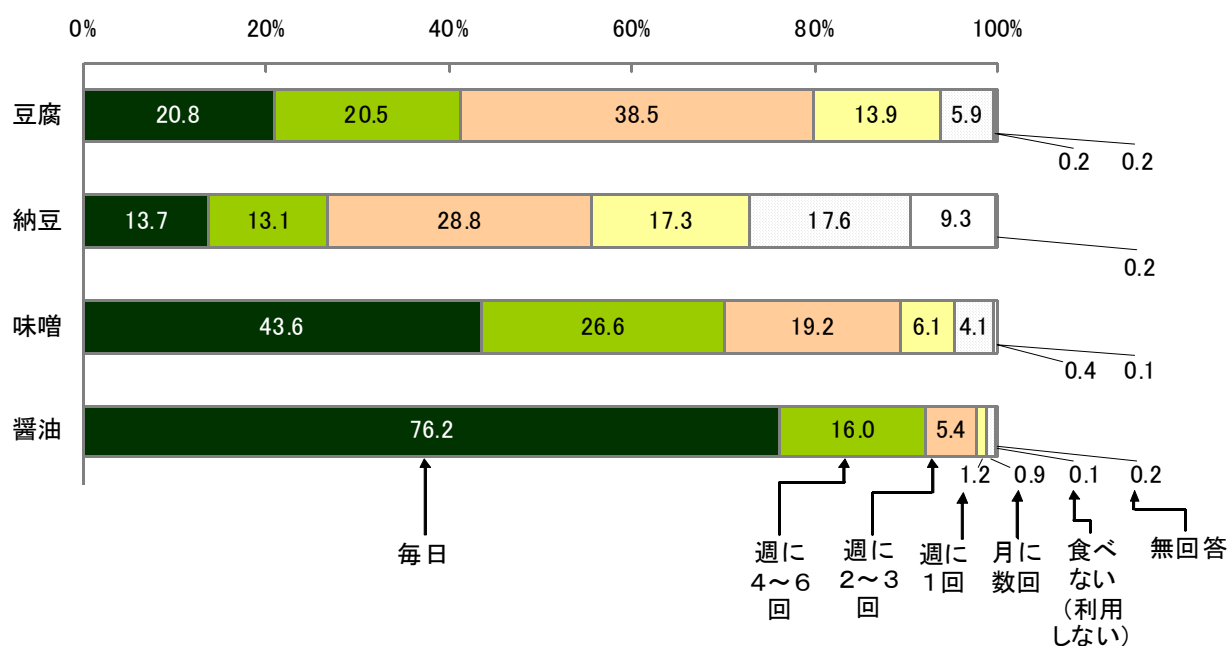
【調査結果の概要】

1 大豆加工食品を食べているまたは利用している頻度

—いずれの大豆加工食品も日本人の食生活に浸透していることがうかがえる—

大豆加工食品を食べているまたは利用している頻度を尋ねたところ、豆腐及び納豆については「週に2～3回」と回答した人の割合が最も高く、味噌及び醤油については「毎日」と回答した人の割合が最も高くなっており、いずれの大豆加工食品も日本人の食生活に浸透していることがうかがえる結果となった。(P. 11～14参照)

図1 大豆加工食品を食べているまたは利用している頻度



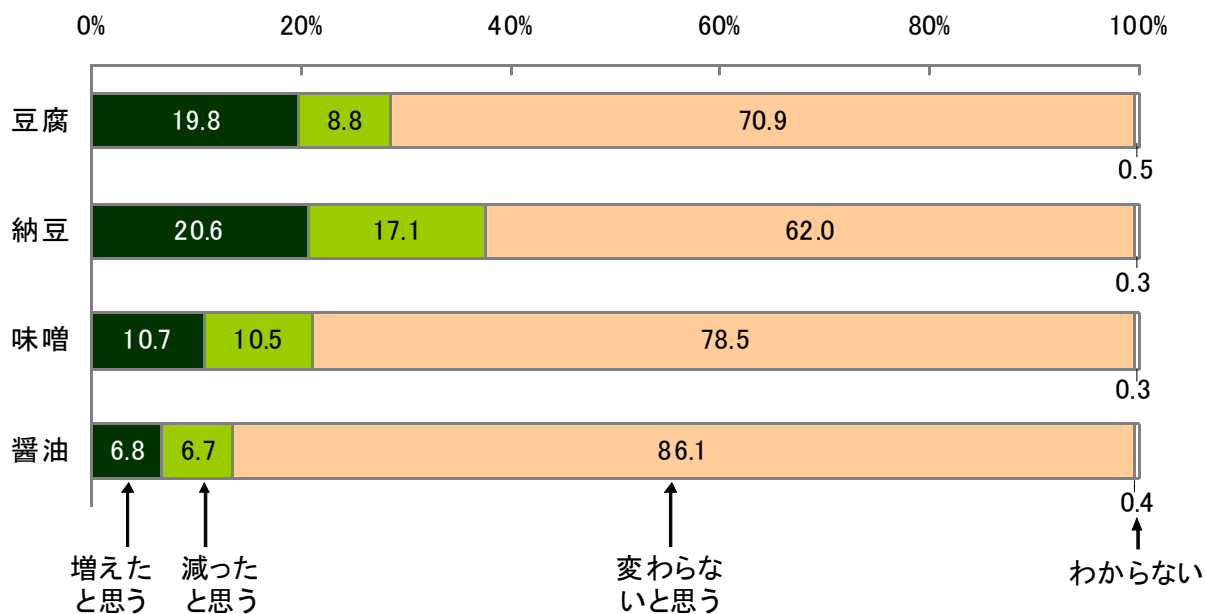
2 1年前に比べた大豆加工食品の購入（利用）頻度

－豆腐については「増えたと思う」と回答した人の割合が「減ったと思う」と回答した人の割合を上回る－

大豆加工食品を食べているまたは利用していると回答した人のうち、1年前に比べた大豆加工食品の購入（利用）頻度について尋ねたところ、いずれの食品においても6割以上の人々が「変わらないと思う」と回答した。

食品別にみると、豆腐については「増えたと思う」と回答した人の割合が「減ったと思う」と回答した人の割合を上回る一方で、納豆、味噌及び醤油については「増えたと思う」及び「減ったと思う」と回答した人の割合が同程度となった。（P. 15～18参照）

図2 1年前に比べた大豆加工食品の購入（利用）頻度



3 大豆加工食品を購入する際に、特に注意していること（複数回答）

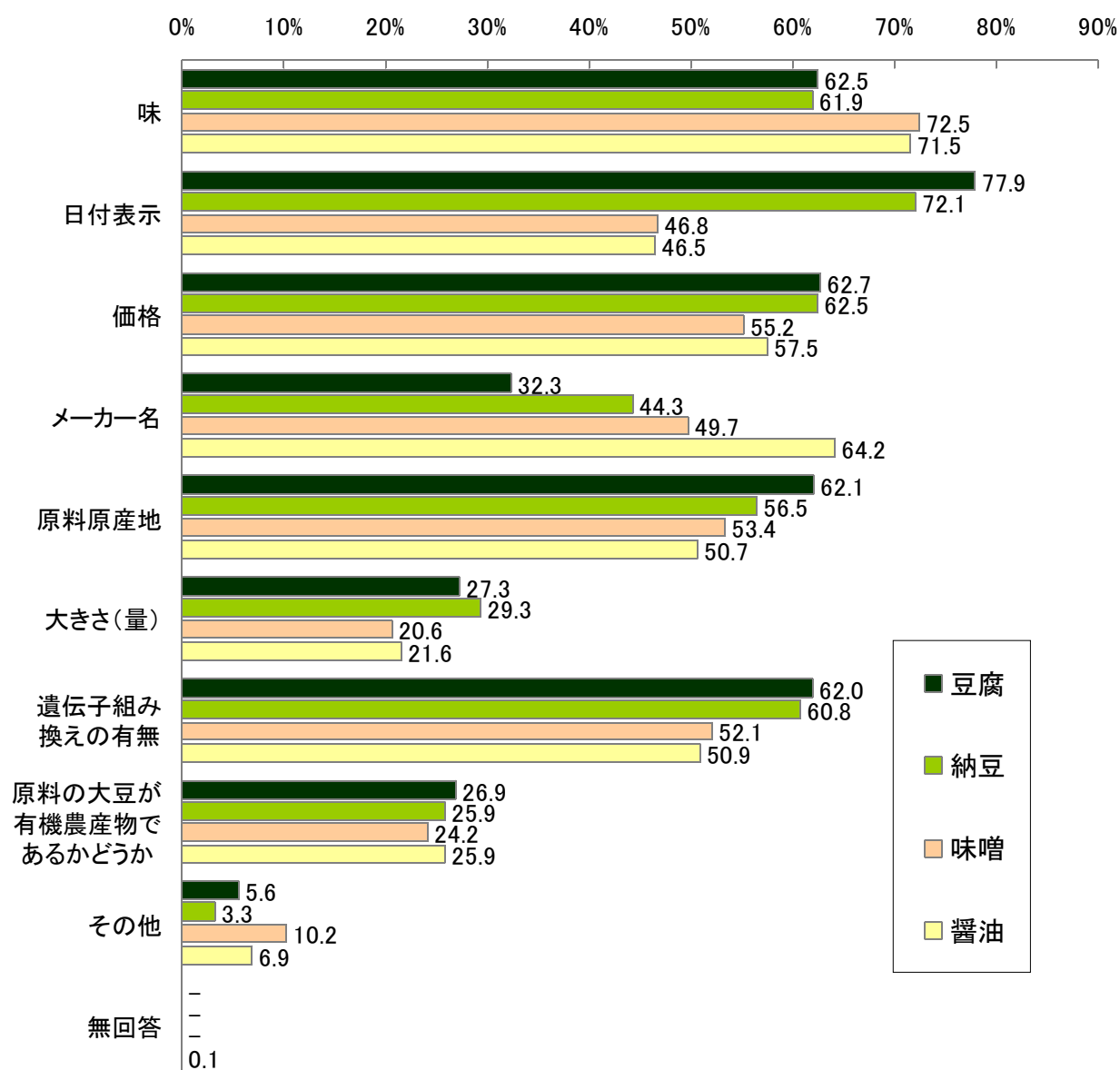
－豆腐及び納豆では「日付表示」、味噌及び醤油では「味」を特に注意している－

大豆加工食品を食べているまたは利用していると回答した人のうち、大豆加工食品を購入する際に、特に注意していることについて尋ねたところ、豆腐及び納豆では「日付表示」(豆腐：77.9%、納豆：72.1%)、味噌及び醤油では「味」(味噌：72.5%、醤油：71.5%)がもっとも高い割合となった。

一方で、「大きさ（量）」及び「原料の大豆が有機農産物であるかどうか」を特に注意していると回答した人は、いずれの食品においても2～3割程度であった。

また、「メーカー名」を選択したのは、豆腐では32.3%、醤油では64.2%となっており、3割の開きがあった。(P. 19～22参照)

図3 大豆加工食品を購入する際に、特に注意していること（複数回答）



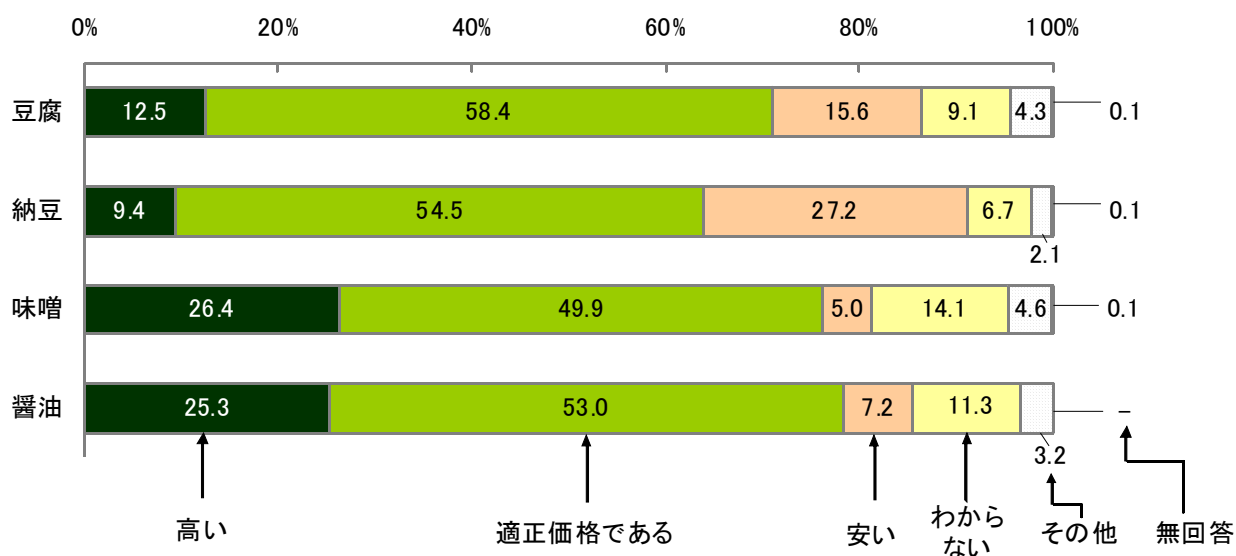
4 現在の大豆加工食品の価格に対する意識

－現在の大豆加工食品の価格については5割以上の方が「適正価格である」－

大豆加工食品を食べているまたは利用していると回答した人のうち、現在の大豆加工食品の価格について尋ねたところ、いずれの食品においても5割以上の方が「適正価格である」と回答した。

食品別にみると、納豆では「安い」と回答した人の割合が「高い」と回答した人の割合を上回る一方で、味噌及び醤油では「高い」と回答した人の割合が「安い」と回答した人を上回った。(P. 23～26参照)

図4 現在の大豆加工食品の価格に対する意識



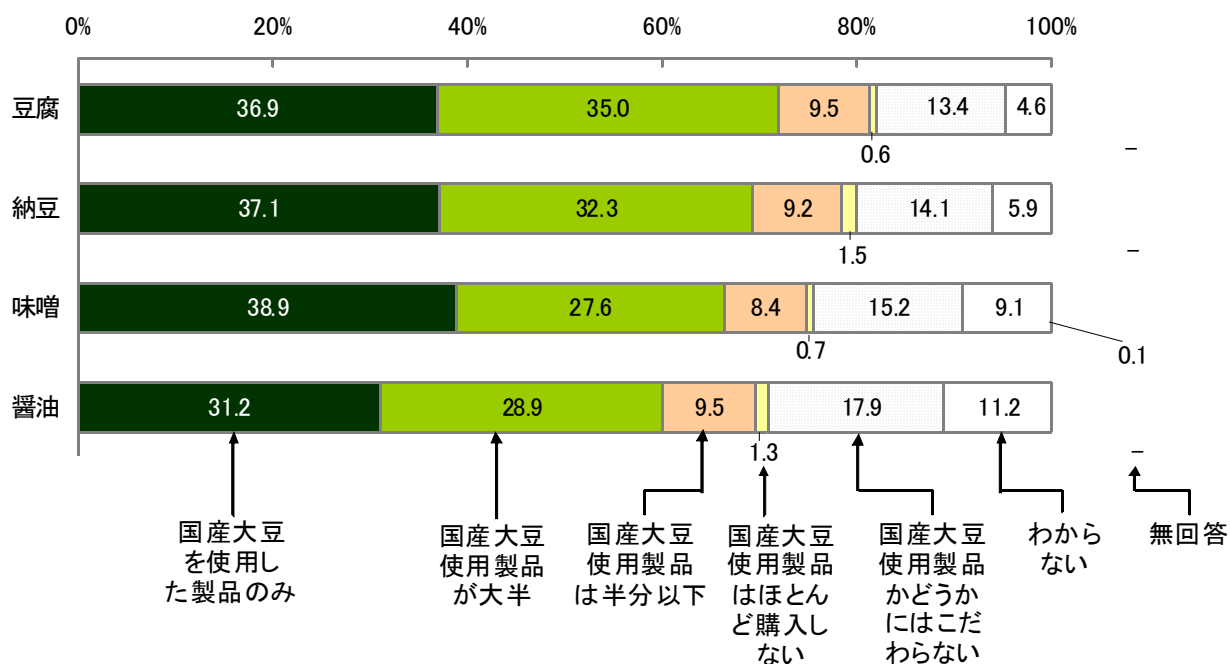
5 国産大豆を使用した製品の購入割合

－ 6割以上の人が「国産大豆を使用した製品のみ」または「国産大豆使用製品が大半」－

大豆加工食品を食べているまたは利用していると回答した人のうち、国産大豆を使用した製品の購入割合について尋ねたところ、いずれの食品においても6割以上の人が「国産大豆を使用した製品のみ」または「国産大豆使用製品が大半」と回答した。

一方で、いずれの食品においても「国産大豆使用製品かどうかにはこだわらない」と回答した人は1～2割であった。(P. 27～30参照)

図5 国産大豆を使用した製品の購入割合

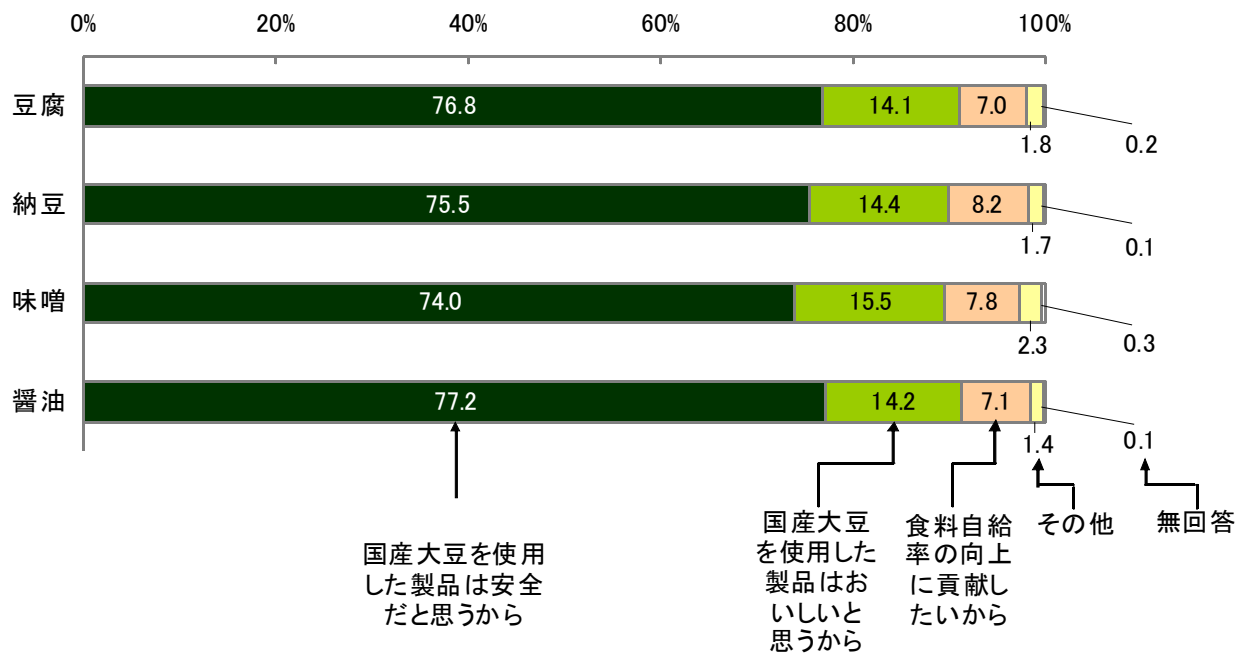


6 国産大豆を使用した製品を購入する理由

－ 7割以上の方が「国産大豆を使用した製品は安全だと思うから」－

「国産大豆を使用した製品のみ」または「国産大豆製品が大半」と回答した人のうち、国産大豆を使用した製品を購入する理由について尋ねたところ、いずれの食品においても7割以上の方が「国産大豆を使用した製品は安全だと思うから」と回答した。(P. 31～34参照)

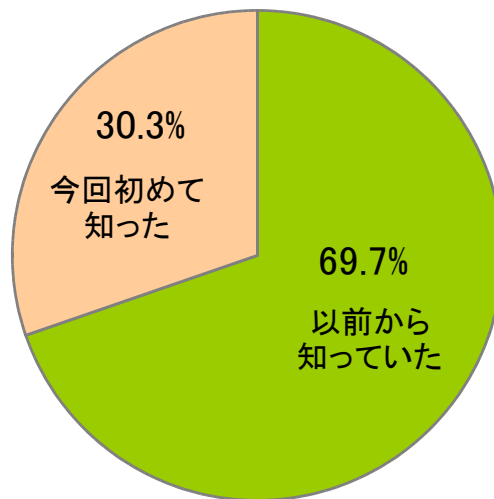
図6 国産大豆を使用した製品を購入する理由



7 豆腐、納豆、味噌、醤油等の大豆加工食品の原材料大豆の約8割は米国やカナダ等からの輸入大豆であることに対する認知度
－ 7割の人が「以前から知っていた」－

大豆加工食品の原材料の約8割は米国やカナダ等からの輸入大豆であることを知っているかについて尋ねたところ、7割の人が「以前から知っていた」と回答しており、3割の人が「今回初めて知った」と回答した。(P.35参照)

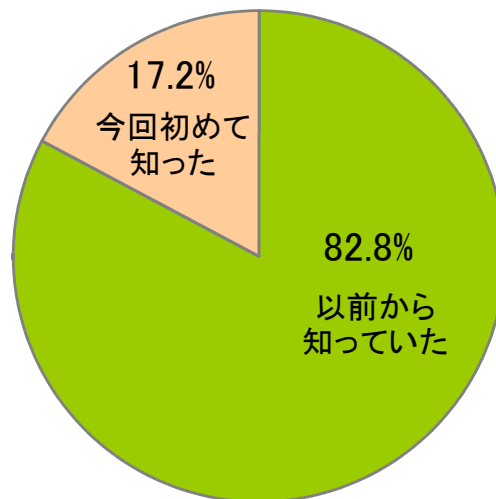
図7 豆腐、納豆、味噌、醤油等の大豆加工食品の原材料大豆の約8割は米国やカナダ等からの輸入大豆であることに対する認知度



8 大豆加工食品製造業者が、原料大豆価格や原油価格の高騰により、製造コストが非常に上昇するなど厳しい経営環境にあることに対する認知度
－ 8割の人が「以前から知っていた」－

大豆加工食品製造業者が、原料大豆価格や原油価格の高騰により、製造コストが非常に上昇するなど厳しい経営環境にあることについて尋ねたところ、8割の人が「以前から知っていた」と回答しており、2割の人が「今回初めて知った」と回答した。(P. 36参照)

図8 大豆加工食品製造業者が、原料大豆価格や原油価格の高騰により、製造コストが非常に上昇するなど厳しい経営環境にあることに対する認知度



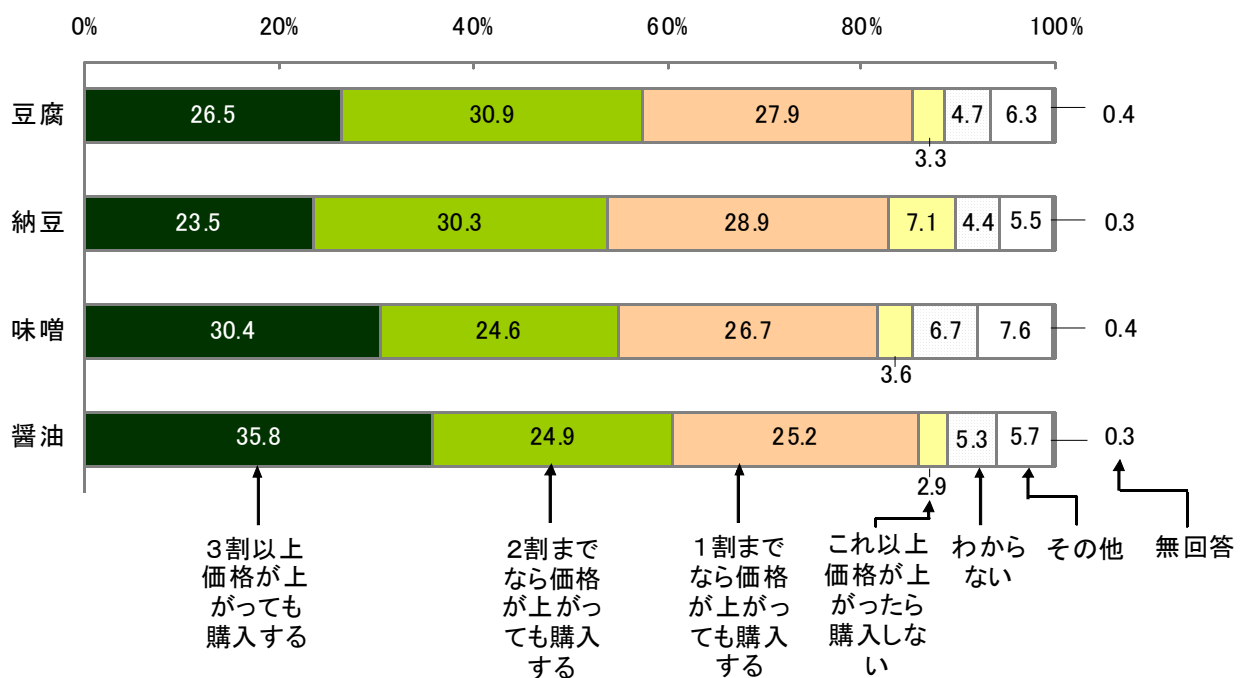
9 大豆加工食品の購入価格について、今後の意向

－ 8割以上の人「価格が上がっても購入する」－

大豆加工食品を食べているまたは利用していると回答した人のうち、大豆加工食品の購入価格について、今後の意向を尋ねたところ、いずれの食品においても8割以上の人「価格が上がっても購入する」と回答した。

食品別にみると、豆腐及び納豆では3割の人が「2割までなら価格が上がっても購入する」、味噌及び醤油では3割以上の人「3割以上価格が上がっても購入する」と回答した。(P. 37～40参照)

図9 大豆加工食品の購入価格について、今後の意向



10 遺伝子組換え大豆を原料とする大豆加工食品について、今後の意向

－ 8割の人が「価格が安くても遺伝子組換え大豆を使用した製品は購入したくない」－

大豆加工食品を食べているまたは利用していると回答した人のうち、遺伝子組換え大豆を原料とする大豆加工食品について、今後の意向を尋ねたところ、いずれの食品においても8割の人が「価格が安くても遺伝子組換え大豆を使用した製品は購入したくない」と回答した。(P. 41～44参照)

図10 遺伝子組換え大豆を原料とする大豆加工食品について、今後の意向

